

介護福祉士会

特集

ヤングケアラーと
介護福祉士



目次

P-1：巻頭言

P-4：特集：ヤングケアラーと介護福祉士

インタビュー 介護福祉士 波多野 充 さん

P-10：研修報告：介護福祉士実習指導者講習会

会員 志賀 舞

P-11：投稿募集について

P-12：会員の声 学び続け成長を楽しもう

会員 富樫 恵

P-14：令和4年度地域ブロック

学習会のご案内・編集後記



ICT・介護ロボットの活用で 変わってきている介護現場

東京都介護福祉士会 理事 浦尾 和江
～根拠ある介護とチームワークの実現～

まん延防止等重点措置が明けても

まず始めに、会員の皆様の職場では、withコロナでご苦勞の多い中、様々な感染対策を進め、創意工夫し、実践力を強くしながら利用者が安全で安心できる生活をサポートしていることと思います。新型コロナウイルスの「オミクロン株」により広まった「まん延防止等重点措置」は、3月21日に全面解除されましたが、東京都の感染者数は、「緊急事態宣言」の時よりもはるかに多い状況ですから、依然として新規感染者数は高止まりのまま推移した状態が続いており、決して安心できるわけではありません。

私も仕事柄、高齢者施設や事業所へ伺うことも多いのですが、施設内でクラスターが発生し、重症者の入院はあっても軽症者は施設内で療養を余儀なくされ、生活空間のゾーニングを行っても認知症の人への対策に苦慮したり、職員の家族が感染し、職員が濃厚接触者

として自宅待機となったり、更には、コロナにより保育園が休業したため、職員は感染者でも濃厚接触者でもない状況で子どもの面倒を見るために仕事を休まざるを得ない状況となり、通所介護事業所が臨時休業するところまで出ています。重点措置が解除となっても職員に対する週1回のPCR検査や基本的な感染対策はこれまで通り、介護・医療現場にとどまらず新型コロナウイルス感染症は、私たちの社会活動へさらなる影響を及ぼしてきています。

介護人材不足は深刻か

さて、本当にわが国には介護人材がいないのでしょうか。2021年7月に厚生労働省は介護福祉士の資格を持っている人の就労状況調査結果を公表しました。資格を持っていながら他の仕事で働いている人、特に仕事をしていない人である、潜在介護福祉士は、全国で約12万人です。介護現場の慢性的

な人材不足ですが、令和4年2月末現在で介護福祉士登録者数は、約181万人です。厚生労働省は、2040年まで介護職員の不足人数はさらに拡大していくとして280万人と想定し約69万人不足するとしています。日本の総人口は減少し続けているものの人口の高齢者数に比例するように介護を必要とする人は増え続け、ピークはまだ先です。生産年齢人口の減少が今後も加速されていくので、働き手が少ない中、他の職種に比べて介護業界の有効求人倍率は3.5倍以上ですから、本当に介護人材が不足していることが分かります。

介護人材確保に向けた様々な取り組み

政府の人材確保対策では、介護職員の処遇改善の取り組みによる賃金アップや中高年、若者、子育て世代等の介護未経験者に対する入門的研修等を実施し、介護のすそ野を広げようとしています。また、介護職の魅力伝える情報発信や外国人材の受け入れ、更には、介護職の離職防止のために業務改善として介護ロボットやICTの活用による、生産性の向上に向けた取り組みや施設内に保育施設を設置するなど、介護職員の定着に向けた様々な対策が行われています。会員の皆様の施設や事業所では、これらの取り組みはどのくらい進んでいますか。

思った以上に革新を遂げている介護現場

介護現場におけるICT化と介護ロボットの導入は、ここ数年間で多くの介護施設や事業所で実用化されるようになってきました。中でもケアプランや介護記録等はPCやタブレット端末を使用して作成することが当たり前になってきています。厚生労働省は、データベース「LIFE」を活用することを推奨しています。某特別養護老人ホームでLIFEをどのように利用しているか介護統括主任に聞いたところ、導入から間もないが、利用者の基本情報や心身の状態、行ったケア内容等の情報を登録すると、データから導き出された利用者にはふさわしいケアが提示されてくるので、ケアプランや個別援助計画の作成に役立てているとのこと。ペーパーレス化が図れ、他部署との情報共有が施設のどこにいても瞬時に可能で、業務の効率化だけではなく時間短縮や業務改善につながってきているとのことでした。

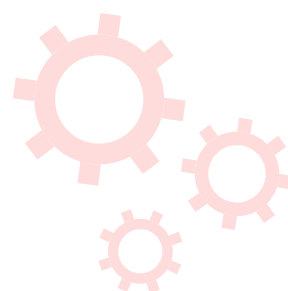
さらに、特別養護老人ホームでは、認知症の人や看取りの人の介護を行う中、夜間の巡視や緊急時対応は介護職にとって負担の多い業務です。離床センサーの進化で、睡眠時の状態を科学する見守りロボットを導入する施設も増えてきました。マットレスの下に設置したセンサーにより寝返り、起き上がり、睡眠の深さや呼吸、心拍など

が測定され、利用者の状態をPCや携帯端末でリアルタイムに確認することができます。夜間トイレに起きた時やベッドからの転落の危険がある時等、状態に合わせて巡視が可能となり、介護職の業務の軽減やデータの蓄積はケアプランの改善等に役立てられています。また、呼吸の変化で看取りが近いこともデータから読み取れるので、家族とのお別れの時期や事故予防の予測ができるため、ケアの質の向上につながっています。

介護ロボットというと人型をイメージしやすいですが、介護職の生活支援をサポートする、例えば、食事のケアでは、嚥下状態を判断するために咽頭マイクによる飲み込み音や呼吸音を把握し安全な食事の支援に役立てたり、排泄のケアでは、排尿・排便を可視化できるエコーを利用し、適切な排泄の支援を行うなど、これらの介護ロボットは、アセスメントをする上で根拠付けとなるものです。本人の意向や現場の感覚を大切にしながら「科学的介護」といわれる技術を味方にして、客観的な証拠に基づいた介護を実践することが求められている今、このような機器を使いこなし、介護職が利用者と直接関わる時間を増やす取り組みが求められます。

ICTや介護ロボットを上手に活用し、より良いサービスの向上につなげる感覚もこれからは持ち合わせていくこともあっていいのではないかと

思います。巻頭言が長くなりましたが、少しでも興味を持っていただけると幸いです。



速報

第34回介護福祉士国家試験 合格発表について

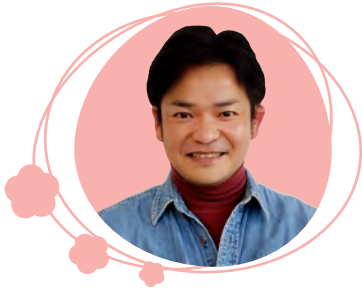
3月25日に社会福祉振興・試験センターより、「第34回介護福祉士国家試験」の合格発表がありました。

全国の受験者83,082人に対して合格者は60,099人でした。合格率は72.3%。介護福祉士の登録者は令和4年2月末現在で1,813,851人となっています。今年度の合格者の登録が待たれますね。介護福祉士会への入会をお待ちしています！！共に活動しましょう！！

特集

ヤングケアラーに聞く

今、介護福祉士に求めるもの



介護福祉士 波多野 充さん

介護福祉士養成校2年課程を卒業。卒業後、特別養護老人ホームに勤務。お母様の容態が悪くなりフリーターになり、お母様の介護をしながらコンビニで5年間勤務。その後、介護現場に戻るが、現在は介護現場を一時的に離れ、介護教員などの仕事に従事している。

ヤングケアラーについて知っていますか？

この数年、ヤングケアラーという言葉をよく聞くようになってきました。若い世代が、介護をする際に抱える悩みや苦しみ、必要な情報、そして、そこから私たち介護福祉士ができることは何なのか？を、実際にヤングケアラーだったご経験のある介護福祉士の波多野充さんに広報部でインタビューしてまいりました。

広報部：何歳ぐらいから誰の介護をしていらっしゃったのですか？

僕は、小5の時から母の介護を行っていました。母は、当時38歳。脊髄空洞症という十万人に一人の難病で、手の震えからはじまり全身に症状が進行していき、1年後に東京慈恵会医科大学病院で診断されました。当時は小田原に住んでいたため僕は釣りなどをする元気な小学生でした。母の病気が進むにつれて、少しずつ家事をする時間が増えていき、

僕は洗濯物干し、買い物や簡単な料理等していました。

広報部：波多野さんがお一人でケアを行っていたのですか？

母が自宅療養中は、4つ上の姉、1つ上の兄、僕の3人で、姉弟で協力して介護していました。父は企業戦士で、さらに家事や介護をすると生活ができないので、姉がメインで介護を担っていました。兄もしっかりしていて、末っ子の僕はさぼる時

もありましたね(笑)父は、私たちには最初、母親の体の状態について伏せていましたが、途中から姉がしきりに泣いていたので、当時知らなかった僕はどうして泣いているのかなと思っていました。あとから姉だけは知っていたことを知りました。その他には、大磯に住んでいた父方の祖母や大宮に住んでいた母方の祖母が泊りがけでたまに看病に来てくれることもありました。当時は、父の思いもあり何のサービスも利用していなかったと思います。

広報部：若い人へのサービスは、当時なかったかもしれませんね。当手を振り返ってみて、困っていたこと、感じていたこと等は何かありましたか？

今、振り返ってみると、皆が遊んでいるときに自分は何で家のことをしているのかと、ジレンマがありましたね。でも、家族のためにもどうにかしなければという思いがありました。そして、途中で母の病気の進行を防ぐ脊髄シャントの手術をした時には、「命に関わる死亡する確率が高い手術だ」「もし成功したとしても、今後病気が進行してしまうと母が死んでし

まうのではないか」という恐れや怖さも感じていました。僕はソフトテニス部に中学・高校と入っていました。高校では、部活への思いが強いことを認められ主将をしていました。我が家は姉弟で助け合い、一人で介護はしていない状態だったにも関わらず、それでも部活動と家事の両立が大変でした。一人で行っていたら、もっと大変だったと思います。

広報部：波多野さんが介護福祉士として介護の道へ進むきっかけや、お母様がサービスを利用するようになったきっかけについて教えてください。

そうですね。地域とのつながりだったと思います。兄の同級生のお母さんで「肉じゃが」等を届けてくれたりした方がいました。でも、その女性がある日ALSにかかり、母より先に亡くなったのです。そういう経験から地域への恩返しがしたいと思ったし、「充は優しいから介護に向いている」と母が言ってくれたことで介護福祉士の道へ進む気持ちになりました。介護保険制度が導入された2000年に専門学校に入り、その後



介護福祉士として働き始めました。母の病気の進行とともに、僕たちは、何度も要介護認定を受けるよう父や母に話しましたが、ぎりぎりまで受けてくれませんでした。障害の手帳も取っていませんでした。僕たち姉弟は、大人になり、それぞれ結婚をしたり、実家を出たりしましたが、義兄が地域包括支援センターの主任ケアマネをしており、義姉も介護福祉士でもあったので、時間をかけて家族全員で両親の説得にあたり、要介護認定を受けることになりました。そんな中、僕は介護の仕事をしながら母のところに行く頻度が高くなり、父から「充も仕事があるのだから帰れ」と言われるようになりました。その後、父が一人で行う母の介護に限界を感じ、訪問介護、デイサービス、ショートステイを利用することとなりました。

広報部：当時こんな情報が欲しかったことや助けてほしかったこと等ありますか

今は地域包括支援センターがありますが、当時はなかったと思います。でも、もしあったのなら、相談機関を知れたらよかったと思います。

広報部：地域の方からの支援で助けられるだけでなく、相談場所がどこにあるのか等の情報もほしかったということですね。

はい。ただ、僕は家の中のことを外に出していくのが恥ずかしい気もしていました。しかし、兄が中2の時、英語の弁論大会で母のことを発表し、周囲の人たちから理解が得られたのです。先生や地域の人々の理解もあり、助け合いの輪がさらに広がり、心が軽くなりました。

広報部：当時は、「ヤングケアラー」という呼び名はありませんでしたが、今、名前が広がって思うことは、何かありますか？

ヤングケアラーという名前が知られるようになったことで、社会に助けを求めやすい環境になったのではないかと思います。それでも、助けを求められない人もいることも事実です。

広報部：今は介護保険がありますが、それでもヤングケアラーとして頑張っている人がいます。それを人に伝えることは、決して恥ずかしいことではないけれど、勇気がいることに変わりありませんよね。現在、波多野さんはヤングケアラーとしての活動を何かなさっていますか？

いろいろな専門職の方々が参加するある研修会で、「ヤングケアラーが母を看取るまでの軌跡」というテーマで少し前に、講師としてお話しをさせていただきました。ヤングケアラーとしてやってきたこと、最期の3年間は特別養護老人ホームで過ごし、そこで看取ったこと等を話しました。

広報部：お母様は、昨年お亡くなりになられたそうですが、お母様がお亡くなりになった今、思うことはありますか。

介護福祉士の介護離職について、国はどのように思っているのでしょうか。介護福祉士が親の介護もしながら仕事もしていく。その大変さも国は考えていってほしいなと思います。そして、介護は親だから芽生える葛藤、悩み等、割り切れないことも多いです。相手のことを知りすぎているが故にジレンマに陥るのです。若い世代はまだ感情のコントロールが難しく、精神的な負担が大きいのではないのでしょうか。その悩みを相談に乗ってくれる場所があるといいと思います。

広報部：そうですね。若い人が集まれる場所。例えば、24時間繋がって相談できる SNS サービスなどで5分10分離れられる場所でもいいと思うのです。若い世代の悩みを聞き取れる場所があまりにも少なすぎますよね。

子どもたちが授業中に寝ていると、なぜ、寝ているのかも聞かず

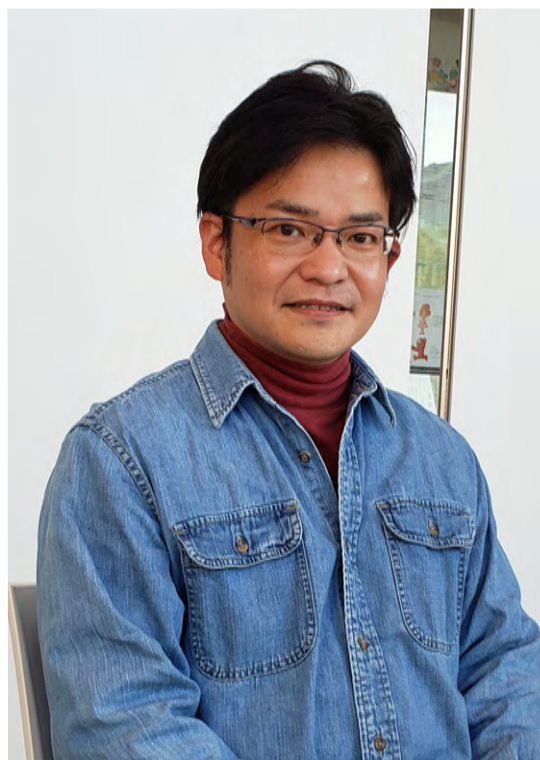
にただ寝ていると学校の先生は捉えることもあるようです。もしかしたら、その子はヤングケアラーかもしれない。そういう寝てしまう子ども達の背景をさらに考えてみてほしいなと思います。

広報部：ヤングケアラーを見つけられるツールのようなものがあるといいですね。今は、小学校でも家庭訪問がない学校が多いです。そうすると、自宅がどのような状態になっているかをキャッチする方法が、先生方は少ないと思いますね。さて、ヤングケアラーの大変さがクローズアップされることが多いですが、何かここは良い点だということはないのでしょうか？

母の介護をずっとしていたので、ご利用者やご家族の気持ちが分かることが多いです。それが私の介護福祉士のベースになっています。あまりよくはないかもしれませんが、ご利用者やご家族に感情移入してしまいますね。でも、それが理由でご利用者やご家族から人気になることもあります。

広報部：子どもの頃に人を支える経験をする、人の心を大きく成長させるのかもしれませんが、最後、今後、介護福祉士に期待したいことはありますか？

一生懸命になり過ぎてバーンアウトしないように、自分の心身を大切にしてほしいです。人は自分の気持ちに余裕があるから、他人に優しくできます。まずは自分自身が幸せでないといけないと思うのです。また、自分の家族を大事にした上で無理をしすぎないように介護をして欲しいです。介護福祉士が世間から認められるには一人一人意識を変え、スキルアップと自己研鑽することが必要です。チームとして力を発揮できる介護福祉士が求められていると思います。1人が全部を支えるのは無理ですよ？お互いに欠けている部分を一人一人が持つ能力で互いにサポートする。それが大きな輪になっていけば、支えられるものもたくさんあるのではないのでしょうか？



広報部から最後に

介護は大人、特に嫁がするものという考え方は、昔からある。だが実際は、子どもが親の介護を行うことは、実は今に始まったことではない。今、それが表に出てきたことは良いことで、社会がその子どもや家族を支えるチャンスでもある。

しかしその反面、ヤングケアラーという言葉だけが独り歩きしなければいいとも思う。『子どもの頃から親の介護をしてきた。それでも自分のやりたいことは見つけれらるんだ』。そんな風に思える環境づくりを、今、私たち介護福祉士には求められているのかもしれない。



広報部から挨拶

東京都介護福祉士会 会員 田中宏実 さん

はじめまして。このたび、東京都介護福祉士会の広報部に参加させて頂くことになりました。私は、介護福祉士として20年程福祉業界に携わってまいりました。大変だと思いうこともありましたが、それ以上に楽しさや、やりがいを感じてきました。広報部では今までの経験を活かし、他のメンバーの方と協力し、関心をもって頂ける情報をわかりやすくお届けできたらと考えております。最後になりますが、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願っています。

研修報告

介護福祉士実習指導者講習会

東京都介護福祉士会 会員 志賀 舞

平 成20年の春に介護福祉士登録をしてから14年目を迎えようとしている今年、少々遠回りをしている感もあったが、今の自分に必要なスキルだったので躊躇なく受講を申し込んだ。そして、実際に4日間の日程を受講してみると、現在進行形のフレッシュな講義やワークが展開されたため、「受講して良かった！」と感じている。

具体的には、実習指導の基軸となる科目を中核として、その指導を肉付けする周辺科目によって構成された講習内容だった。受け入れ施設で数々の実績があり、現在も指導に当たっている方や、学生を実習に送り出す養成校の教職の方が講師を務めて下さった。そのため、テキスト等に沿った講義だけでなく、「実際にこんなことがあった」「学生さん達は実際こんな感じ」「養成校との連携の回り方は…」等、実体験に基づいた話や実際の課題解決例の話も拝聴できた。そして、私たち受講生の質問にも経験則に基づいた答えが

頂けたり…と、講習会だけの空論ではなく現実的なイメージを描きやすく、且つ実践に落とし込みやすい講習内容だった。

この4日間の学習内容の中で「特にこれ!」というピックアップがしづらいほど充実した講習会であったが、実習を受け入れるための準備～実習指導までの流れや、指導の在り方や指導方法（コーチング、スーパービジョン）については、日頃の現場教育（新入職員受け入れ、OJT等）にも十分活用できるものだったということが、私だけではなくグループの他メンバーも感じていたことだった。

また、改めて、先輩介護福祉士として「求める介護福祉士像に到達できるようように研鑽すると共に行動規範を遵守できる介護福祉士を育成していかなければならない（後継者の育成）」という意識を強める必要があると感じた。

少し本末転倒かもしれないが、この講習会で学んだことを意識して日頃の現場教育に取り組んでいけば、受け入れ施設としての役割を全うすることができる組織集団になれるのではないかな？そんな風に感じたので、学習したことは実

習生受け入れ時まで温めておくことはせず、早速明日からの現場教育で実践を重ね、取り組みながら、未来の介護福祉士たちのために自らの指導力も高めていきたいと強く思う。



投 稿 募 集

会員の方からの投稿募集について

会員の方にも広報誌の作成に参加いただきたいという思いより、以下の投稿をお待ちしております。今後も継続して募集いたしますので、「ぜひ、掲載したい！」というお写真がございましたら、事務局 Email アドレスまでご送付ください。

- ・ご利用者の作品
- ・こんな素敵な場所を見つけました

注：・募集頂いた作品の写真データは、ニュース掲載にのみ使用させていただきます。

- ・掲載が決定いたしましたら、こちらよりご連絡いたします。
- ・ご利用者の作品に関しては、**事前に承諾を得る・個人が特定されないように文字データを消す・画像を加工する等**、プライバシーへの配慮をよろしくお願い致します。
- ・営利目的のものは、ご遠慮ください。

事務局 E-mail address : tokaigo-post@bunken.co.jp

会員の声



会員の声

学び続け成長を楽しもう!

富樫 恵 東京都介護福祉士会 会員
社会福祉法人 世田谷区社会福祉事業団
在宅支援課 在宅支援統括担当係長

私の介護福祉士としてのキャリアは今年で24年目をむかえました。

特別養護老人ホームで10年、デイサービスで2年、世田谷区福祉人材育成・研修センター※11年、そして今年からデイサービス、居宅介護支援事業、地域包括支援センターを統括する部署に所属しています。

介護職としてのキャリアをスタートした時点での目標は、もちろん国家資格「介護福祉士」を取得することで、先輩たちが、仕事の合間、家事の隙間時間に勉強に励む姿をみながら、後に続けました。その後、関連資格にチャレンジしながら、それなりに自己研鑽に取り組んできたものの、胸をはって国家資格をもった専門職です、とは言えない自分がいました。

研修センターに配属され、介護職員初任者研修の講師を担当することになった際に、その理由がはっきりしました。わかっていた通りの「介護の基本」

について明確に伝えられない自分がいたのです。ショックでした。焦りと同時に、もっと学ばなければという意欲がムクムクと沸き上がり、わくわくする気持ちもありました。介護福祉士会主催のものなど、様々な研修を受講し、書籍や雑誌などからも学び、講師としての実践を積み重ねました。また、尊敬するA先生に、介護の基本をはじめ、講師の心構えや指導方法などを教えてもらうこともでき、本当にラッキーなことでした。

いかに未熟であったかということを感じ知らされはしたものの、この経験は、あらためて私の介護福祉士としての土台を固めなおす、貴重な機会となりました。

今年から、あらたな部署に配属され、実務を経験したことのないケアマネジャーや地域包括支援センターの業務を学ぶ良い機会となっています。悪戦苦闘しつつも、自分自身の成長を感じながらあらたな仕事に取り組んでいます。

大 リーグの大谷選手が「もっとうまくなるために、いろいろと考えることが楽しい」とTVインタビューで話していました。成長と考えること生活することを支える介護の仕事は学ぶことに事欠きま

せん。これからも楽しみながら学び、成長し続けるとともに、まわりにもその楽しさを伝え、介護の仕事の魅力を高めていきたいと考えています。

※世田谷区福祉人材育成・研修センター＝福祉人材の確保・育成・定着を図ることを目的に世田谷区が設置。世田谷区社会福祉事業団が運営しています。



ポートレート写真展

広報部員の並木がポートレートモデルで参加しましたので撮影の様子をお伝えします。撮影は2日間で、モデルは17組21人。皆さん、私服で外国籍の方は民族衣装で参加されました。プロのメイクとヘアセットで、笑顔でマンジョット氏が介護の仕事の魅力って何？…と問いながら、ライティング、ポージング。皆さん、自分の仕事について語りながら、仕事のPRIDEに満ち溢れ素敵な表情をされています。

皆さま、是非、写真展のご来場をお待ちしております。

世 田谷区社会福祉事業団 世田谷区福祉人材育成・研修センターでは福祉の理解や仕事の魅力発信に向け「小中高生夏休み福祉体験」や福祉写真展などを行っています。この度、研修センターでは世田谷区で働く介護職を世界的なクリエイターのマンジョット氏が撮影したポートレート写真展を開催します。

開催期間：令和4年5月4日～6月3日

場所：世田谷区立保健医療福祉総合プラザ1階 ふれあいカフェ うめとぴあ

マンジョットペディ氏：エグゼクティブクリエイティブディレクター / カメラマン
世界的クリエイター、伊勢神宮、トヨタ自動車 / レクサス等数々のCMを作成。
一般社団法人 KAiGO PRiDE 代表理事

「KAiGO PRiDE」：厚生労働省が主導する「介護施設に等における生産性向上に資するパイロット事業」の一環として、2019年に熊本県からスタートした「介護の魅力発信」プロジェクトです。日本介護福祉士会をはじめとする全国のパートナーと共に、介護の新しい力を見つけ「誰もが自分らしく安心して暮らせる社会」に繋がることを目指しています。

令和4年度 地域ブロック学習会のご案内

今年も地域の皆様方のご協力・ご参加を頂き、各区市町村介護福祉士会・ブロック会は活動して参ります。次回の日程は下記のようになっております。ホームページよりお申込みください。 ※ホームページ：http://www.tokaigo.jp/

介護福祉士会 ・ブロック	実施日時	会場	内容	参加費	担当者名
西東京ブロック	毎月第3金曜日 20:00～	オンライン	調整中	無料	徳山・渡邊
調布ブロック	令和4年 6月24日 19:30～	ZOOM	介護のモヤモヤを話してみよう 自職場の悩みを 自分の言葉で語る会	無料	小幡
大田 ブロック	調整中	調整中	調整中	調整中	並木・ 中川・ 馬來 (まき)
杉並区 介護福祉士会	調整中	調整中	調整中	調整中	溝呂木

編集後記

春の光に新緑がまぶしく映える時期になりました。皆さんは、ご利用者とお花見ができたでしょうか？特別な場所に行けなかったとしても、少しの工夫で、生活の中で季節を感じていただけることもできますね。介護福祉士として、どのようなことができるか。考えただけでワクワクしませんか？そんなワクワクする仕事を日々行っていきたいものですね。

広報部：村田 小百合

発行：公益社団法人 東京都介護福祉士会

事務センター：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

☎：03-6824-9397 Fax：03-5227-8631

E-mail address：tokaigo-post@bunken.co.jp

※掲載原稿、および写真の無断転用を禁じます。